

令和7年度 地域おこし協力隊実績報告書

令和8年9月30日

児島 潤二



（１）活動概要

私がつもスキル・経験・知識・実績・各メディアでの活動などを活かし、森町役場 商工労働観光課にてアクティビティの新規造成、観光の再開発と PR、実際に体験型観光へのご案内するガイド業務を行うために、来訪頂く全ての方々と町民の皆様に安心して安全にお過ごし頂くための防災を前提とした、森町の新たな商工・観光・防災の取り組みを行っている。

世界的にも日本は災害列島であることが認知されていることから、当町へお越し頂く皆様にとって、安心・安全な街であることをしっかりと構築し、それを大前提とした新規アクティビティ造成・観光再開発を行うことは急務であり、駒ヶ岳を中心とした周辺地域との観光と防災の連携や、様々な視点から幾度もフィールドリサーチを重ねながら情報収集を行い、ニュース媒体への露出をはじめ、SNS 発信、町内イベントへの積極参加、普段のガイド活動などを通じ、観光・アクティビティと防災は密接な関係であること等、当町の観光関係分野における新たな取り組みについて、町内外・国内外へと発信している。

（２）実施した活動

２月から開始となった地域おこし協力隊としての活動のため、２月・３月は３年間の活動計画や森町内～環駒ヶ岳周辺地域のリサーチと、森町の現在の状況確認のために森町議会の過去動画振り返り確認などを主な活動とし、以下の事項を実施した。

- ・森町公式 HP や観光協会 HP など軸とした町内・周辺地域のリサーチ
- ・函館着 大型客船用 アクティビティ資料作成（森観光協会から依頼）
- ・森町 新名物(食品)企画作成
- ・森町 道の駅 再開発について企画作成
- ・アクティビティ造成～観光再開発+PR 計画：３年間の目標/資料設定
- ・森町議会の過去動画確認作業：町内及び周辺地域の課題・問題とその対処などの確認
- ・自然災害に対する防災に関する問題点の確認

（３）成果と課題

３月時点で理解出来たこととして、アクティビティ・観光について、ほぼ取り組みされていない状況のため、問題は様々あることが確認出来た。豊富な資源が、既に陰に埋もれてしまっている状態。特にアクティビティに関しては催行・開催されているコンテンツはゼロであり、年間の定例・恒例のイベント意外は全く行われていないことが分かった。逆を返すと、資源は十分であることから、私のこれまでの経験・実績・人脈などを活用することにより、少しずつコンテンツ造成は前進出来ると確信することが出来た。ただ、大きな課題は「観光と防災」が全く連動していないこと。これを解消するために尽力します。

（４）次年度への提案

私の地域おこし協力隊としてのキャリアは今年２月からとなっていますが、周囲との関係性や相手方の都合などから、現時点では自身の計画から少し遅れが出ていたこともあり、次年度（来春）からは計画に沿った実働に繋がる活動を増やす努力をします。１年目にアクティビティ造成のベースをほぼ完成させ、２年目以降はガイドとしての本格的な実働へ向けた営業活動などの要素も含め、足で稼ぐPR～集客活動を行います。連動して観光防災の取り組みをしっかりと進めながら、更なるアクティビティ造成と観光の再開発を行います。

（５）総括

森町としては、私が初めて商工労働観光課での地域おこし協力隊採用となった１人目でした。課内では、何を・どう進めて良いのか分からない、全てが手探りでスタートとなりましたが、白石商工労働観光課長をはじめとする、小杉係長、一條係長、課内の皆様と共にゼロから取り組んだことにより、森町では失いつつあった観光の道に、ほんの一筋の明かりが灯り、課内全員で代わる代わる息を吹きかけ、その火を大きくする努力をしています。特に私の担当でもある小杉係長との連携は、アイデアと本音をぶつけ合い、最良の道と一緒に探して頂きながらの作業となっており、常にポジティブな方向へと導いて頂いている実感があります。アクティビティ造成はとても特殊な業務であり、ある意味“職人”を扱う難しさも含まれることから、行政の通常業務とは大きく懸け離れた仕事のため、判断が難しい局面も多々あるかと思います。それをご理解頂き、更には、白石課長・小杉係長によって裏側の仕事を最速で進めて頂いていることも、私の今の業務展開に繋がっており、これは本当に感謝の言葉しかありません。

資源が十分な森町の観光は、必ず発展すると確信しています。そのために私はあらゆる努力を惜しみません。地域の皆様にこの活動を知って頂き、ご協力を頂きながら、森町の魅力ある未来発展を目指し、地域おこし協力隊としての活動を引き続き進めて参ります。

以上